

イラン -- ロウハーニー政府の閣僚名簿（中東政治経済レポート）

著者	鈴木 均
権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	中東レビュー
巻	1
ページ	24-26
発行年	2014
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/1368

ロウハーニー政府の閣僚名簿

Cabinet Member List of Rouhani Government in Iran

はじめに

2013年6月14日の第11回大統領選挙においてロウハーニー大統領が登場した経緯とその後のイラン核交渉の進展については前回の「中東政治経済レポート」で紹介し、また本号掲載の別稿においても詳述した。ここでは就任当日の8月4日にイラン国会に提出され、その後の審議を経て決定したロウハーニー政府の新たな閣僚の横顔を紹介し、そこから伺える新政府の性格と方向性を考察することとしたい。

表1. ロウハーニー政府の第一期閣僚リスト（2014年1月7日現在）

職名	名前	生年	前職
教育	フアーニー、アリー・アスガル	1954	
通信	ヴァーエズイー、マフムード	1952.9	公益評議会戦略研究所理事
情報	アラヴィー・タバル、マフムード	1954	専門家会議メンバー
財務	ターイェブニヤー、アリー	1960	
外務	ザリーフ、モハンマド・ジャヴァード	1960.1	アーザード大学副学長
保健	ハーシェミー、セイエド・ハサン・ガーズイー ザーデ	1959	テヘラン医科大学講師(現職)
農業	ホッジャティイー、マフムード	1955	
運輸・都市開発	アーホンディイー、アッバース・アフマド	1957.6	
組合・労働・福祉	ラビーイー、アリー	1955.12	タバータバーイー大学教授
鉱工業・商業	ネエマトザーデ、モハンマドレザ	1945	
科学	ファラージイー・ダーナー、レザ		テヘラン大学教授
文化指導	ジャンナティイー、アリー	1949	
内務	ファズリー、アブドルレザ・ラフマーニー	1959	最高監査院(SAC)長官
石油	ザンゲネ、ビージャン・ナームダール	1953.3	公益評議会メンバー(1996-)
エネルギー	チトチャーニ、ハミード	1957	タブリーズ情報局長官
法務	プールモハンマディイー、モスタファ	1959/60	ハーメネイー事務所政治社会局長官(2003~)
防衛	デヘガン、ホセイン	1957	
スポーツ若者	グーダルズイー、マフムード	—	テヘラン大学教授

(出典) 英語版 Wikipedia および各種報道より筆者作成。

ロウハーニー新政府の顔ぶれ

大統領就任直後の 8 月 6 日に提出された閣僚リストのうち、教育大臣・科学大臣およびスポーツ若者大臣の 3 閣僚については 8 月 15 日の時点で国会の承認が得られなかった。その後 10 月 27 日には 2 閣僚の承認が得られたが、スポーツ若者大臣については 11 月 17 日になって漸く承認された。以上の過程を経て現在では新政府のすべての閣僚が以下のように決定している。

この閣僚リストのなかでまず注目を引くのは、閣僚のなかに高学歴の大学関係者等が多く含まれている点である。ロウハーニー大統領自身がイスラーム法学の分野で英国において博士号を取得しているが、筆者の調べた範囲でも全 18 閣僚中 12 閣僚が博士号を有している。これは直前のアフマディネジャード第二期における 6 閣僚をも大きく凌駕する数字である。因みに欧米への留学歴がある閣僚は通信大臣、外務大臣、運輸・都市開発大臣、鉱工業・商業大臣、科学大臣の 5 閣僚である（すべて筆者調べ）。

次に閣僚の年齢構成であるが、現在のところ判明している 16 閣僚の平均年齢は 59 歳である。これは 1979 年のイラン革命時には平均 25 歳、1988 年のイラン・イラク戦争停戦時には平均 34 歳ということで、正に現在のイランを支える中核的な世代に当たるといえる。因みに最高齢は文化指導大臣の 65 歳、最も若いのは財務大臣および外務大臣の 54 歳である。

「保守派」と「改革派」が混在

ここで「穏健な保守派」と形容されるロウハーニー大統領の新閣僚の政治的な傾向を伺うために、何人かの閣僚の経歴を見てみよう。まず 8 月の国会審査において最高得票率で信任を得た財務大臣はエスファハーンの出身であり、テヘラン大学で経済学を修めたテクノクラートである（専門分野はインフレ抑制策）。2001 年以降ハータミー大統領府の副長官であり、1997-2000 年と 2005-07 年（アフマディネジャード政権の初期）には経済委員会役員を務めた。今回の大統領選では改革派のアーレフ候補を支持している。

他に改革派の閣僚としては、教育大臣がいる。彼はタルビヤト・モダッレス大学で国家経営論を学んだ。その後は一貫して教育行政に携わり、ハータミー時代には教育次官を務めている。2009 年の選挙ではムーサヴィー候補の選挙参謀を務めるなど、改革派の政治家でもある。

次に保守派系の閣僚について見てみると、革命防衛隊の司令官を務めた閣僚が文化指導大臣と防衛大臣である。このうち閣僚中の最高齢でもある文化指導大臣は強硬派のアフマド・ジャンナティー師の息子であり、ゴムのハッカーニー神学校出身である（法務大臣も同神学校の出身）。革命防衛隊司令官、フーゼスタン州知事、イラン国営放送（IRIB）役員等を歴任し、1998-2005 年に駐クウェート大使、2005-06 年に情報副大臣を務めた。

さらに上述の法務大臣は宗教都市ゴムの出身で、ハッカーニー神学校その他においてイスラーム法学を修めた人物である。その後イラン国内各地において検事職を歴任し、ラフサンジャニー政府では情報省副大臣等を務めた（1987～99 年）。アフマディネジャードの第一期政権で情報大臣を務めている（2005～2008 年）。また今回の大統領選では一時立候補を検討していたとされる。2003 年以来ハーメネイー事務所の政治社会局長官であり、ロウハーニーとハーメネイーを繋ぐ役割をも担っていると思われる。因みに同氏は 1988 年の囚人大量殺害に関与した人物として、複数の国際人権団体が法務相就任の取消しを求めた。

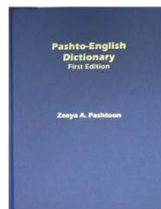
最後に閣僚リストそのものからは若干外れるが、ロウハーニー新政府にとって最初の課題である P5+1 との核交渉のための人材の配置を一瞥しておこう。まず核交渉の外交的な責任者であるザリーフ外務大臣は、2002 年から 07 年までイランの国連代表を務め、この間イランの核交渉を担っていたが、その後公職を退いていた。現在彼のもとで核交渉の最前線に立っているアッバース・アラグチー外務次官は 2011 年 10 月まで在日本大使を務めた知日派の能吏である。また前外務大臣のアリー・アクバル・サーレヒーは 8 月にイラン原子力機構(AEOI)の長官に任ぜられた。

以上のように新政府の閣僚の顔ぶれからは、ロウハーニー大統領が保守派・改革派といった政治的立場を問わず各閣僚ポストに求められる専門分野を重視して、幅広い範囲から人材を結集するように努めた実務的な布陣であることが覗えよう。現在進行中の核協議が近い将来に最終合意にまで至った場合には、財務相や石油相、教育相といった改革派のハータミー元大統領に繋がる閣僚が積極的に活躍する余地も出てくるものと思われる。

(鈴木 均)

Column

資料紹介



Zeeya A. Pashtoon,
Pashto-English
Dictionary,
Hyattsville, USA:
Dunwoody Press,
2009.

パシュトー語はダリー語とともにアフガニスタンの公用語であり、パキスタン北部のペシャワール周辺でも多くの話者がある。ここに紹介する辞書は現在入手可能な最高のパシュトー語・英語辞典である。その序文によると収録語数は約 55,000、1966 年にモスクワで出版されたパシュトー語・ロシア語辞書 (M. G. Aslanov et al., *Afgansko-russkii slovar*) などが基になっている。

筆者が学習で使用した限りの印象では、この辞書は基本語彙を網羅しており、かつ最も基本的な語彙についての説明が丁寧である。例えば zra (心) という単語の解説には豊富な用例とともに 3 ページものスペースが割かれており、筆者の所有する別の辞書で同項目が半ページに満たないのと好対照である。さらに用語や発音の地域的な差異についても詳細な記述がある。

2014 年末を期した米軍のアフガニスタン撤退は、13 年前の 9.11 米国同時多発テロ以来世界の注目を集めてきた同国の将来にとって大きな転機となる。その一方の主役であるターリバーンの言動を理解するためには、パシュトー語の習得は不可欠である。この辞書はそのための最良の伴侶となるであろう。

(鈴木)